

# 「学習サイクル」の提示と継続 ～毎回の授業における「予見・遂行・省察」の実行～

東山中学・高等学校 澤田 寛成

## 実践背景

【中高一貫コースの問題点】 習熟度の低い生徒の中には、「やらないからできない」「学習意欲が低い」などの否定的な言葉を他者から浴びせ続けられ、自己肯定感が下がってしまっているケースがある。残念ながら、本校の中高一貫コースには、一人で行う継続学習まで辿り着けず、理解に苦しみながら授業を受けることになってしまっている生徒が一定数いる。

【解決すべき課題】 自身での数学的な処理をできないまま授業を終えてしまうという状況を打開する必要があると考える。諦めずに自ら考えることができるかが鍵となる。

【仮説】 「予見・遂行・省察」の継続的な実行により、意味理解志向が強まる。

【目ざしたい成果】 予習・復習の方法を体感し、「学び方次第で自分もできる」と考えることができるようになる。

## 実践方法

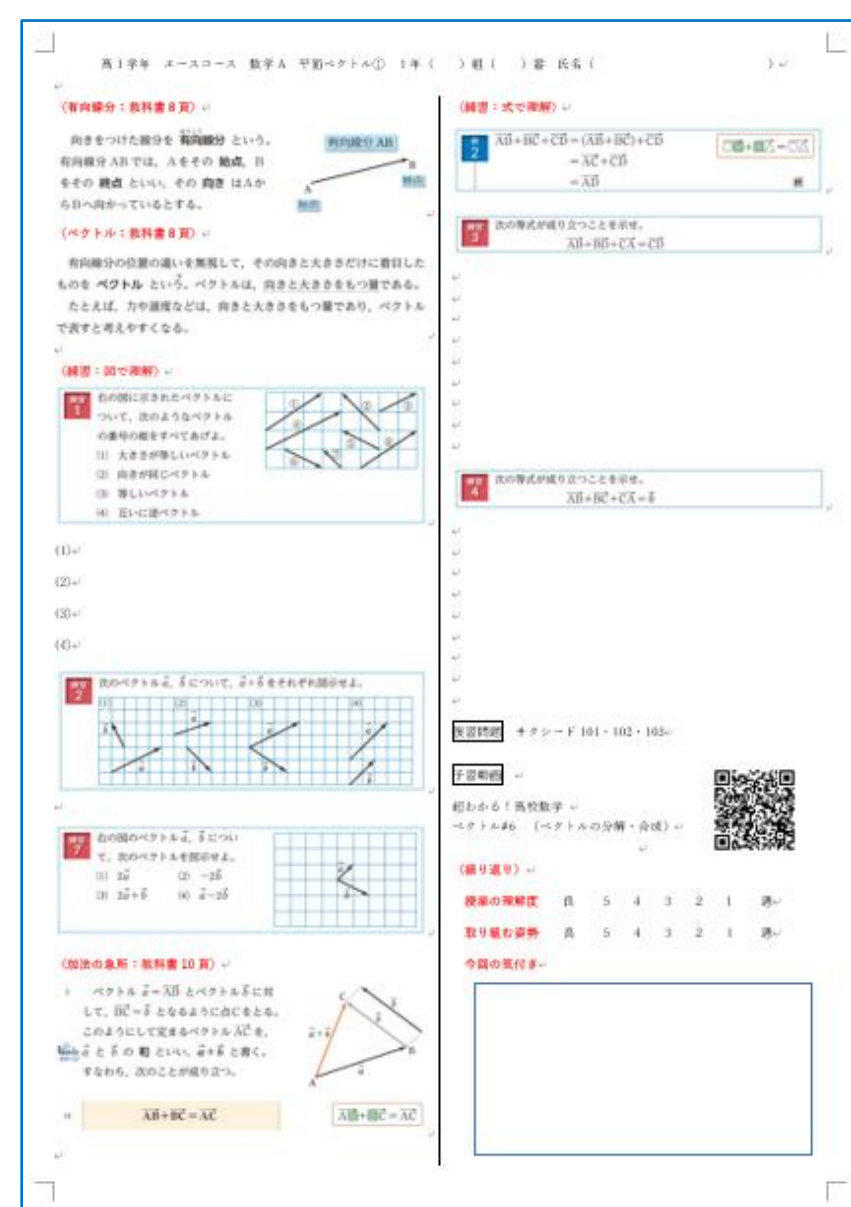
【対象】 高1学年エースコース(58名)

【科目】 数学A(3単位)

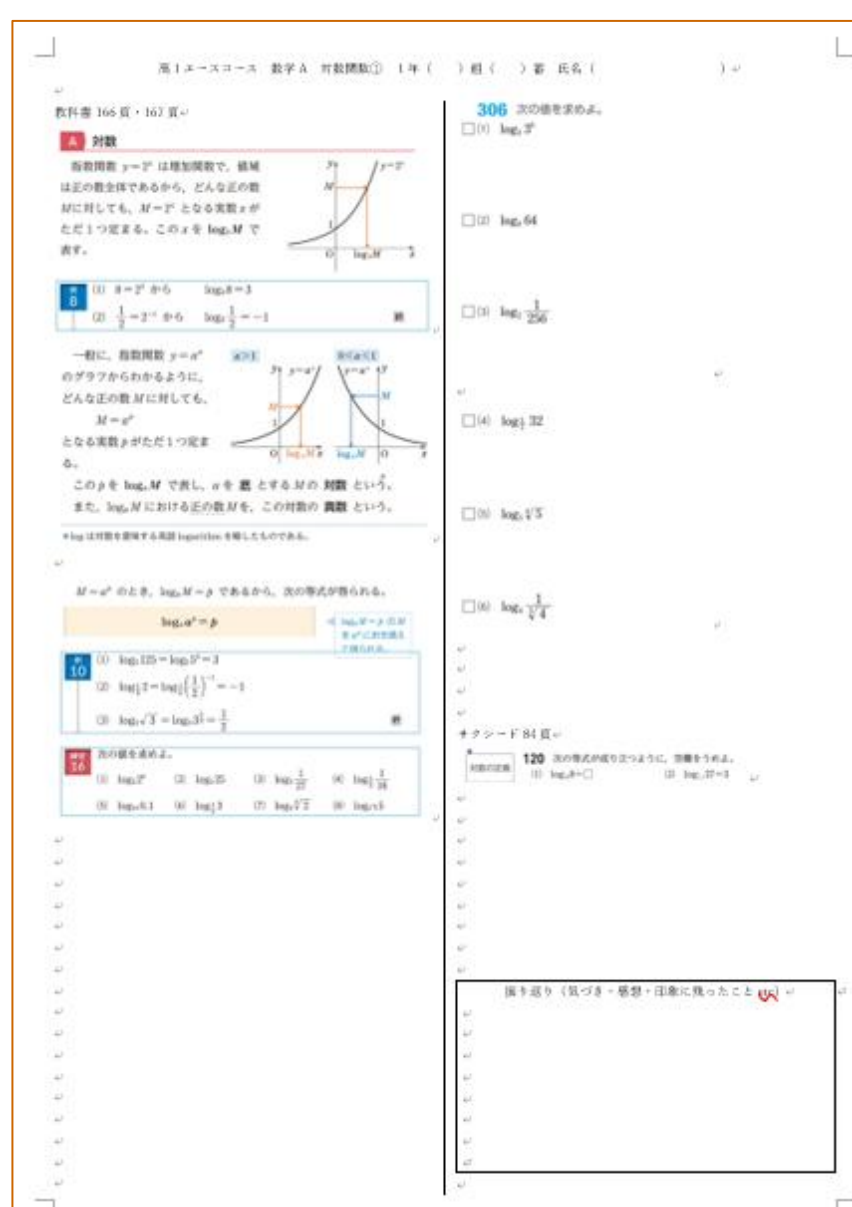
【内容】 B4用紙1枚のプリントを1回の授業内容とし、各授業のテーマを一つに絞った形での授業を展開する。また、この1枚のプリント内に、振り返り欄、予習問題、復習問題を入れ、次回に提出を求めることにより、振り返り・予習・復習でやるべきことを見せ続ける。

【実施期間】 1年間

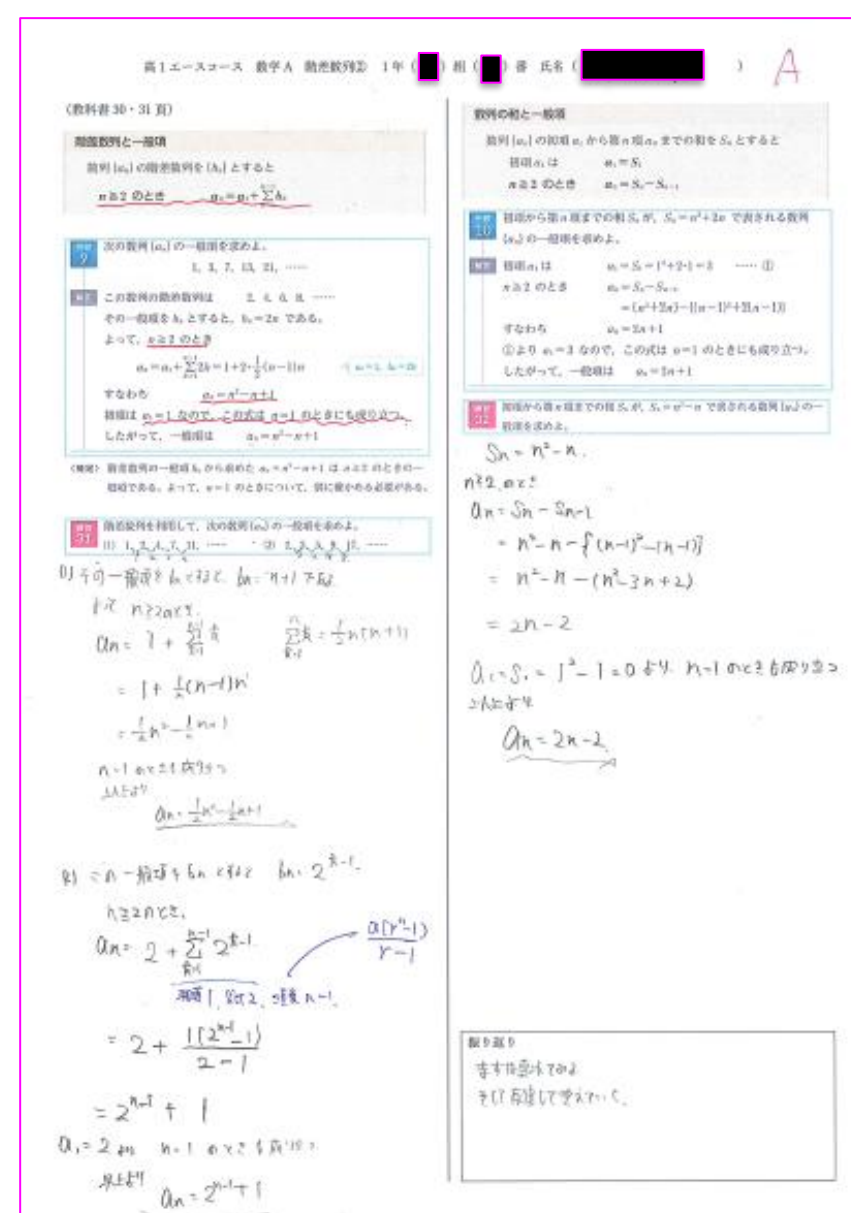
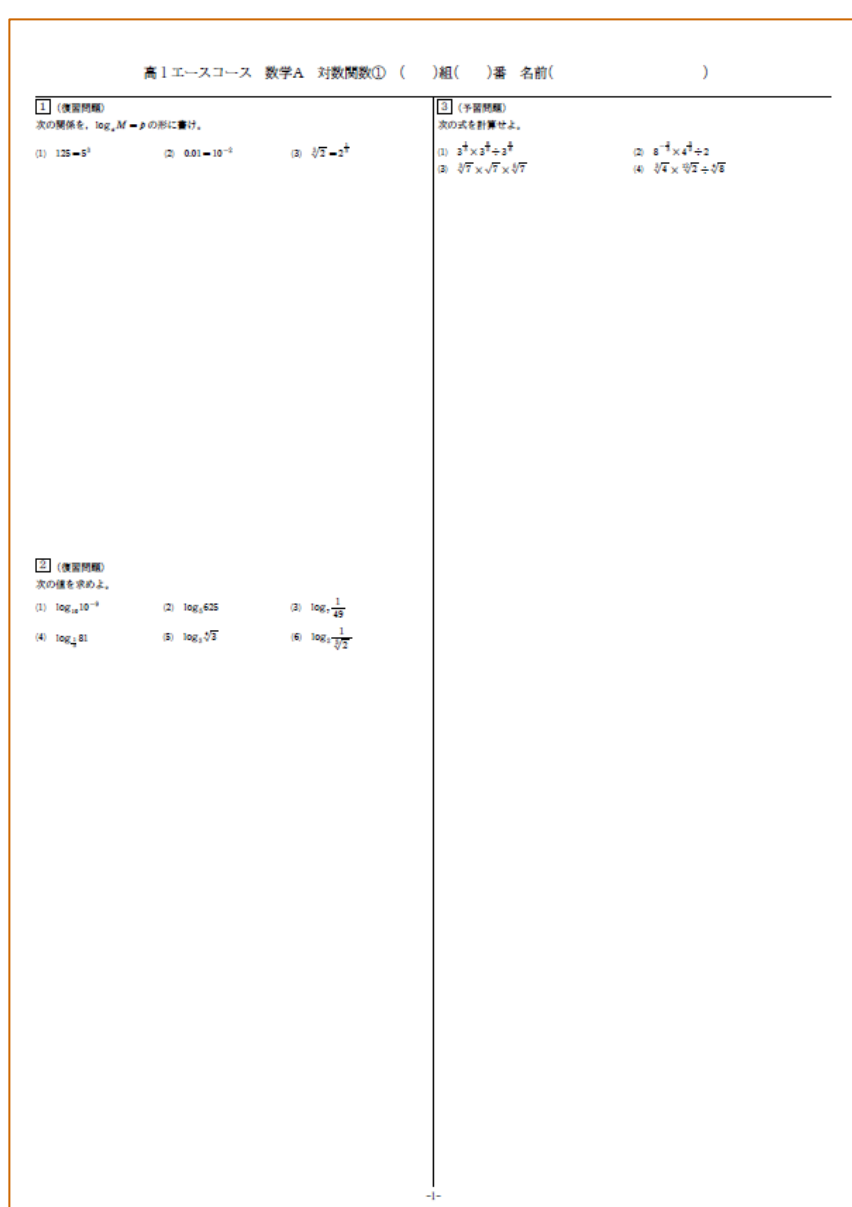
【方針】 生徒の理解度に合わせ、プリント問題を作成する。ただし、到達度の高い生徒にも目を向けることも意識し続けるために、教科書傍用問題集(サクシード)の重要例題は全問解説することにする。進度についても、本校のシラバスに合わせ、速く進むことがあっても、遅くならないように心がける。尚、特に重要と感じる問題については、教え合いの時間を取り、理解の定着を図ることとする。



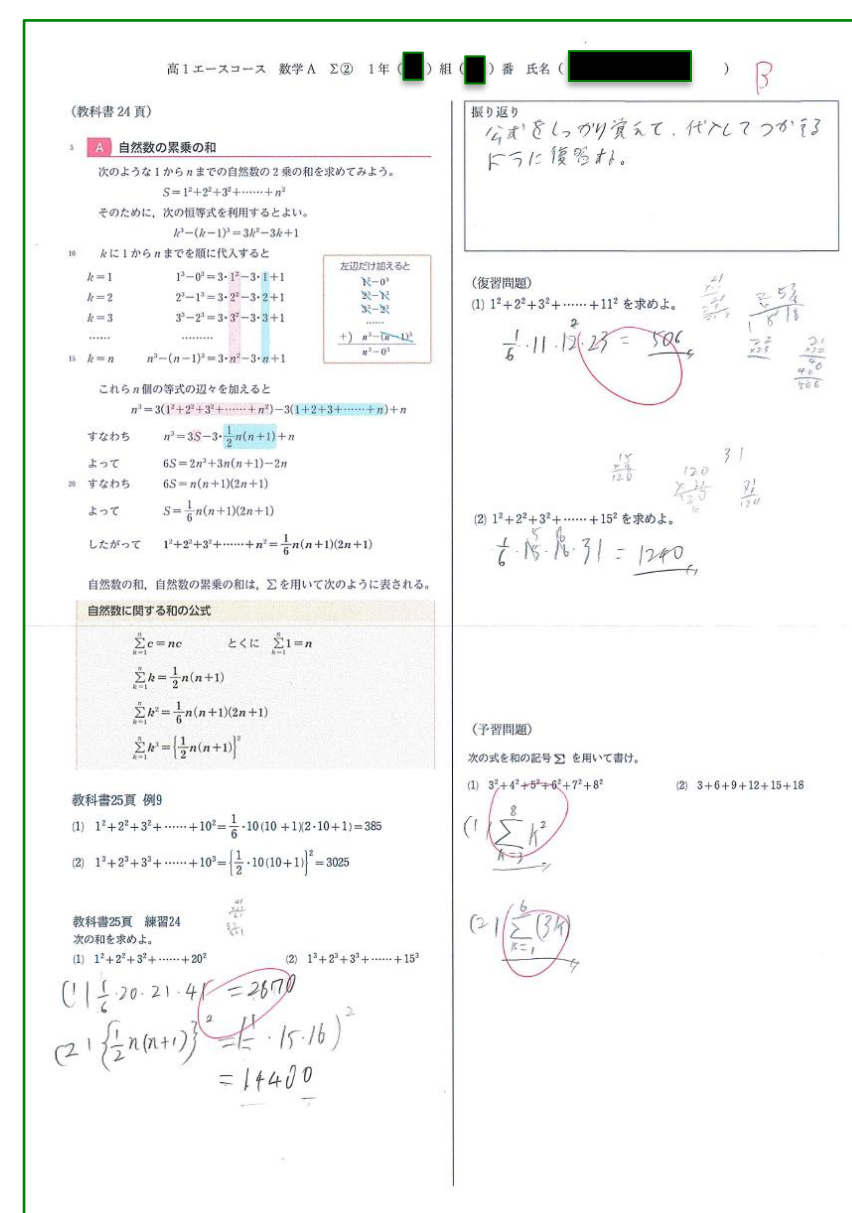
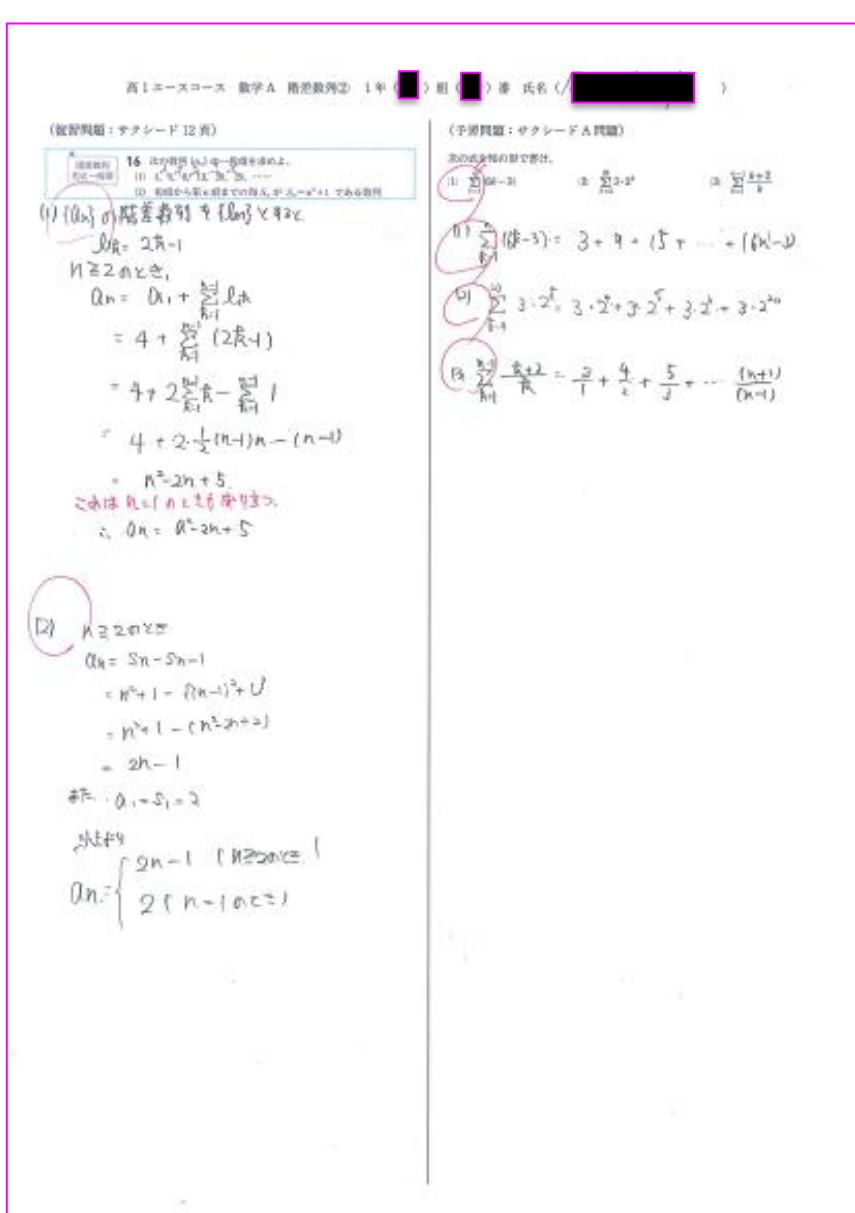
【4月(片面1枚)の作成例】



【10月(両面1枚)の作成例】



【1月(両面1枚)の記入例】



【1月(片面1枚)の記入例】

## 取得データおよび検証方法

【取得データ】

- 学習動機調査・学習観調査の実施(5月・11月)
  - ・高校全学年全コースで実施
  - ・教科や科目を入れずに統一項目として調査
- 授業アンケート(12月中旬)
  - ・授業の理解度、難易度、スピード
  - ・宿題の量、テストの難易度、授業教材
  - ・授業について、学力を伸ばすには？(自由記述)
  - ・家庭学習について、今後大切にしたいもの(自由記述)
- 定期考査との関係
  - ・定期考査の得点とプリント記入内容の評価との関係

【検証方法】

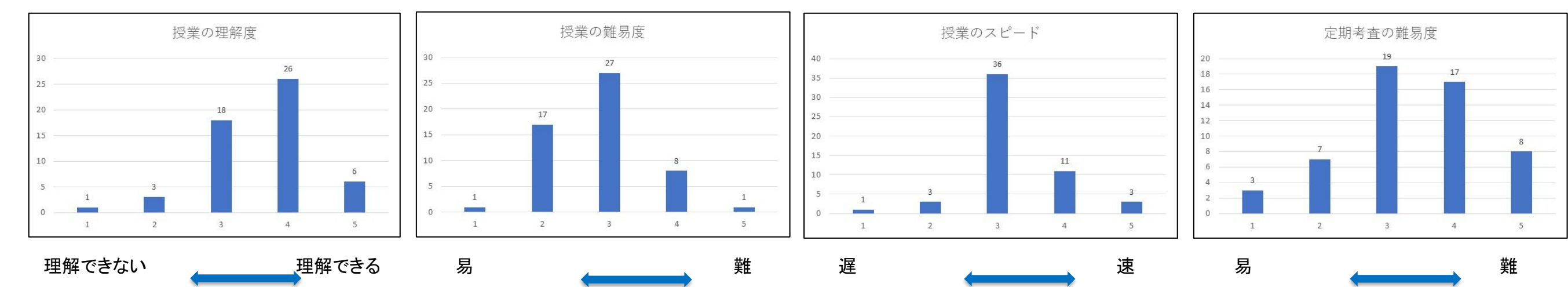
- 学習動機調査と学習観調査では、5月と11月の平均値の変化を基に検証した。
- 授業アンケートでは、授業と家庭学習に対する思いを中心にデータと自由記述を用いて検証した。
- その他として、プリント記入内容と定期考査の得点の相関を検証した。プリント記入内容については、評価が一番低い10月中旬のものを選び、評価が高かった10名と比較した。

## 結果

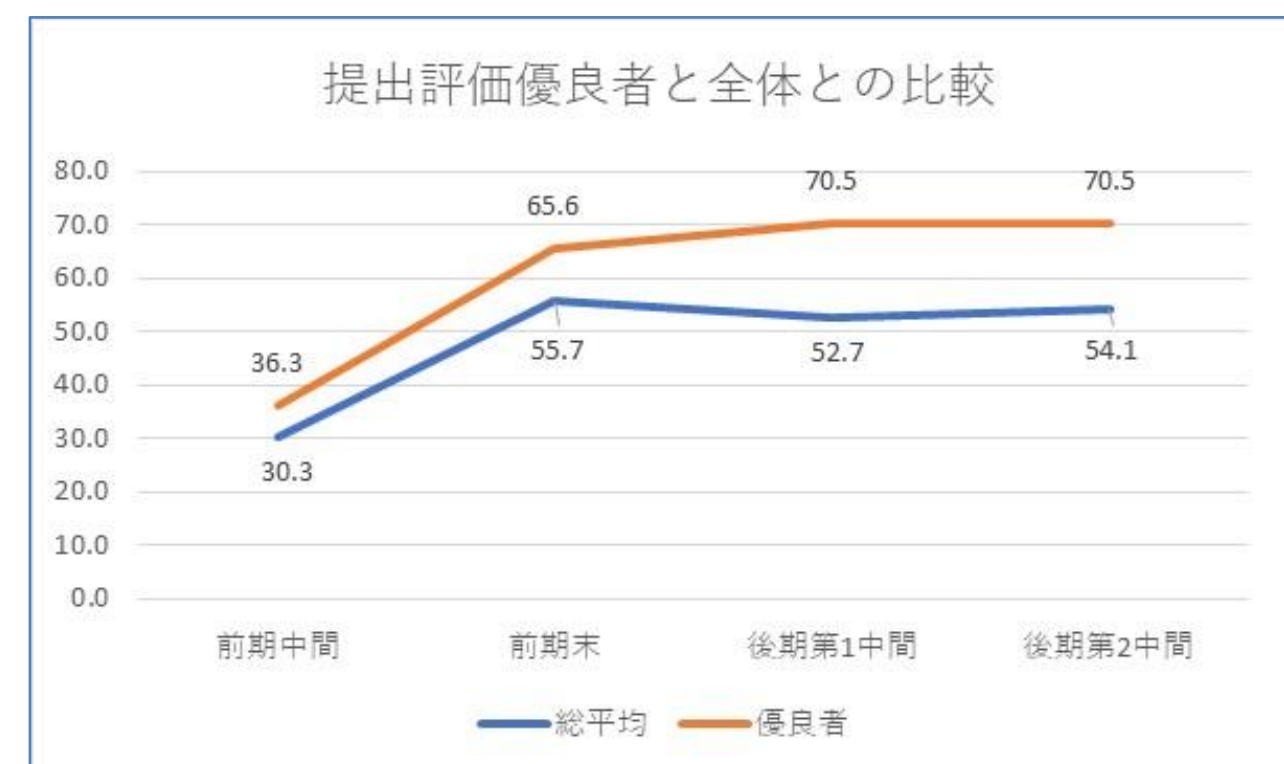
【学習動機調査・学習観調査】 意味理解志向における変化は得られなかった。“習ったことのつながりを整理すると覚えやすい”が4.48ポイント(5月)から4.77ポイント(11月)に0.29ポイント増加するなど小さな変化は現れたが、数学の授業によるものとは考えていない。

	内容関与動機	内容分難動機	暗記志向	結果志向	物量志向	環境志向	意味理解志向	失敗活用志向	思考過程重視志向	方略志向
5月	4.52	3.97	3.69	3.65	4.59	4.11	4.53	4.60	4.49	4.96
11月	4.43	3.81	3.81	3.95	4.48	3.87	4.53	4.56	4.48	4.87
11月-5月	-0.09	-0.16	0.12	0.30	-0.11	-0.23	0.01	-0.04	-0.02	-0.09

【授業アンケート】 授業のスピードは、ちょうど良かったようである。「学力を伸ばすためには？」の自由記述では若干ではあるが、「積み重ねと予習復習、量」「日々習ったことの復習、時間があれば予習をすること」等、学習サイクルを含めた内容が見られた。



【定期考査との関係】 前期中間考査は平均点が低いため比較しにくい面がある。しかし、授業だけでなく、予習・復習・振り返りを真面目に取り組んだ生徒は一定の成果は得られていることは分かる。



## 考察と今後の課題

年度当初のプリントは、生徒の実態を把握できておらず、予習課題が適切でなかった。その後、改善を図ってはいるものの、現在も、予習・復習をしない生徒の割合が多い。如何に手軽な予習課題、復習課題を設定するかが課題である。今後は、次の3点を意識したいと考える。

- ・予習課題や復習課題を選択制にするなど、自由度を上げる。
- ・予習課題や復習課題をクラスメートに採点してもらう。
- ・教員が手をかけ過ぎない。